

A 受身文を使う場合

1. 話者が、第三者の行為または出来事の影響を直接的・間接的に受けたことを表すとき
(主語はふつう話者、または、動作主よりも心理的に話者に近い人) → 第3部4課

例・わたしは山中さんにドライブに誘われた。

(主語=わたし 動作主(誘った人)=山中さん)

・母は電車の中でだれかに足を踏まれてけがをした。

(主語=母 動作主(踏んだ人)=だれか)

2. 主題についての情報が大切なため、動作の主体をはっきり言う必要がないとき

例・事故でけがをした人たちはすぐに病院に運ばれた。(運んだ人=?)

・いじめられた子は転校してしまった。(いじめた人=?)

・この寺は15世紀に建てられた。(建てた人=?)

*主題とともに動作主も大切な情報のときは「～によって」を使って表します。

・キリスト教はフランシスコ・ザビエルによって日本に伝えられた。

3. 自然にそのような気持ちになると言いたいとき：自発を表す文

(心の動きを表す動詞を使う。)

例・この写真を見ると、昔のことが思い出される。

・就職難はさらに続くと思われる。

・この音楽には何ともいえない優しさが感じられる。

B 使役文を使う場合

1. ほかに人に、ある動作をするように強制するとき

(主語はふつう動作主よりも立場が上の人)

例・わたしは弟に荷物を持たせた。(強制した人=わたし 持った人=弟)

・監督は選手たちを毎日30分走らせた。(強制した人=監督 走った人=選手たち)

2. ほかに人の行為を許すとき

例・先生は学生たちに自由に意見を言わせた。(許した人=先生 言った人=学生)

・両親は妹に好きな道を選ばせた。(許した人=両親 選んだ人=妹)

3. あることが原因で、必然的にそのような感情が起こる・行為をすると言ったとき

例・電車が遅れて友達を30分も待たせてしまった。(待った人=友達)

・公園の美しい花が行楽客を楽しませている。(楽しんでいる人=行楽客)

C 使役受身文を使う場合

1. 自分の意志ではなく、ほかの人に強制されてそうすると言ったとき

(迷惑だという気持ちがある。)

例・子供のとき、母によく手伝いをさせられた。(手伝いをした人=わたし)

・入社当時は社内の規則をいろいろ覚えさせられた。(覚えた人=わたし)

2. あることが原因で、必然的にそのような感情が起こる・行為をすると言ったとき

(主語は話者。いい感情を表す場合はあまり使わない。)

例・彼の自分勝手な行動にがっかりさせられた。(がっかりした人=わたし)

・一生懸命仕事をしている人を見て、大いに反省させられた。(反省した人=わたし)

練習1 どちらか適当な方を選びなさい。

- このところうまくいかないことが多くて疲れていた。でも、(a 友人の言葉が元気づけた b 友人の言葉に元気づけられた)。
- 犬は人間とは違う。人間と同じ物を(a 食べられない b 食べさせない)ほうがいい。
- すみません。よくわからなかったんですけど、もう一度(a 説明してくださいませんか b 説明させてくださいませんか)。
- 母は病院で3時間も(a 待たれた b 待たされた)らしい。疲れて帰ってきた。
- 君には期待しているのだ。(a 失望されないで b 失望させないで)ほしい。
- 子供にパンを買いに(a 行かせたら b 行かされたら)、お金を落としてしまった。子供は泣きながら帰ってきた。
- 最近の子供の事情について説明を受けた。改めて(a 教育の大切さが考えられた b 教育の大切さを考えさせられた)。
- うちの子は朝、(①a 起こされなくても b 起こさせなくても)自分で起きて、学校に行く準備を(②a します b させます)。親を(③a 心配する b 心配させる)ようなこともしません。

練習2 ()の中の動詞を文章の流れに合う形にして、書き入れなさい。

- わたしは人には強い人間と(①思う→)いるらしいが、実は非常に気が弱い。これは自分が一番よく(②知る→)いることだ。仕事の関係で、周りの人に頼りない男という印象を(③持つ→)まいとして、表面的に強がっているだけのことだ。
- 子供には小さいころからいろいろな経験(①する→)ほうが良いと思って、できる範囲で家事も(②手伝う→)います。時には、子供たちに不平を(③言う→)こともあります、子供たちにしても家の中のことをいろいろ(④する→)のは楽しいと思っているようです。
- ごみの出し方が(①守る→)いない。燃えるごみと燃えないごみを別々に(②出す→)ことはもう常識である。今は、ペットボトル、かん、びん、容器包装プラスチックが資源として(③集める→)いる。この容器包装プラスチックというのは、商品の中身を(④使う→)後で不要になったプラスチックのことだが、汚れたままのものが(⑤出す→)ことがあるので、清掃局では困っているようだ。
- 車の運転免許を取るのは大変だった。怖い教官に何回もアクセルやブレーキの練習を(①する→)。わたしは特別に下手だったので(②しかる→)ばかりいた。教官の教え方も悪いのだ。腹が立ったので「③(しかる→)ばかりいないで、わかりやすく教えてくださいよ。」と文句を(④言う→)。この言葉が教官を(⑤怒る→)らしく、以後、彼は、わたしの指導はしなくなった。
- 日本は四方を海に(①囲む→)いる。当然、漁業によって暮らしを(②立てる→)いる人が多い。漁業を(③営む→)いる人たちの間で(④知る→)いるのが「魚付林」という言葉だ。海と林とは関係がなさそうに(⑤思う→)が、実は大いにあるのだ。森林に(⑥降る→)雨は、大地にしみ込み、そして、海に流れこむ。この水にはミネラルが多く(⑦含む→)ので、海藻や魚に豊富な栄養を(⑧与える→)のである。

まとめ 次の文章を読んで、文章全体の内容を考えて、1 から 5 の中に入る最もよいものを1・2・3・4から一つ選びなさい

自分の考えに自信をもち、これでよいのだと自分に言いかけただけでは充分ではない。ほかの人の考えにも、肯定的な姿勢を 1 しなくてはならない。どんなものでもその気になって探せば、かならずいいところがある。それを称揚する(注1)。

よくわからないときにも、ぶっつけに、

「さっぱりわかりませんね」

などと水をかけるのは禁物である。

「ずいぶん難しそうですが、でも、何だかおもしろそうではありませんか」

とやれば、同じことでも、2 はまったく違ってくる。すぐれた教育者、指導者はどこかよいところを見つけて、そこへ道をつけておく。3 では、多少、けなされていても(注2)、

4 をよりどころにして希望をつなぎとめることができる。

全面的に否定してしまえば、やられた方ではもう立ち上がる元気もなくなる。5-a でダメだと言うのでさえひどい打撃である。ましてや 5-b からダメだときめつけられたら、目の前が真っ暗になってしまう。

(外山滋比古『思考の整理学』ちくま文庫による)

(注1) 称揚する：ほめる

(注2) けなす：悪く言う

1

- 1 とるように 2 とられるように 3 とらせるように 4 とらされるように

2

- 1 与えさせる感じ 2 与えさせられる感じ 3 受ける感じ 4 受けさせる感じ

3

- 1 批評した側 2 批評された側 3 批評させた側 4 批評させられた側

4

- 1 ほめたところ 2 ほめられたところ 3 けなしたところ 4 けなされたところ

5

- 1 a みんな / b 自分 2 a 他人 / b みんな
3 a 他人 / b 自分 4 a 自分 / b 他人

A 視点の置き方

◆比較して考えたときに、心理的に話者に近い方に視点を置きます。

わたし>いとこのみっちゃん>(わたしが住んでいる市の)市長>アメリカの大統領

例 ○ いとこのみっちゃんは市長にいい仕事を紹介してもらった。

(「みっちゃん」のほうが「市長」より心理的に書き手に近い。)

× 市長はいとこのみっちゃんにいい仕事を紹介してあげた。

○ 市長はアメリカの大統領にいい会場を用意してもらったそうだ。

(「市長」のほうが「アメリカの大統領」より心理的に書き手に近い。)

× アメリカの大統領は市長にいい会場を用意してあげたそうだ。

B 「～てもらう・～てくれる」を使うときの注意

◆「～てもらう・～てくれる」と「～られる(受身)」は主に「快・不快」で使い分けます。

形式	快・不快	例
～てもらう ～てくれる	快	きれいな服を着た日に、姉に写真を撮ってもらった。 毎朝、7時に電話で起こしてもらっている。 今日のコンサートでは懐かしい曲をたくさん聞かせてもらった。 お掃除ロボットは自動で部屋を掃除してくれる機械である。
～られる (受身)	不快	変な顔をしていたら、姉に写真を撮られた。 毎晩、赤ん坊の泣き声に起こされて、寝不足になる。 隣が音楽教室なので、下手なバイオリンを毎日聞かされる。 机の上を他人に勝手に掃除されたら気分が悪いだろう。

*受身文には中立的な意味のものもあります。

「名前を呼ばれたら、返事をしてください」→第3部6課

◆「～てもらう・～てくれる」がないと、動作の相手がわからないことがあります。

例 ? 田中さんが教えた歌は、アメリカの民謡だそうです。(だれに教えたかわからない。)

○ 田中さんに教えてもらった歌は、アメリカの民謡だそうです。(わたし(たち)に教えた。)

○ 田中さんが教えてくれた歌は、アメリカの民謡だそうです。(わたし(たち)に教えた。)

? 花子を書いた手紙を何度も読み返しています。(だれに書いたかわからない。)

○ 花子を書いてくれた手紙を何度も読み返しています。(わたしのために書いた。)

◆「～てもらう」と「～てくれる」は主語が違います。文章中に主語がはっきり表れない場合があるので注意が必要です。

例・事務室に行けば、申請書の書き方を教えてください。教えてもらってから書いたほうがいいですよ。(事務室の人が教えてくれる。わたしたちが教えてもらう。)

練習1 適当なものを選びなさい。

- 兄は婚約者のゆき子さんが(a くれた b あげた c もらった)ネクタイをなくして大騒ぎしている。
- 田中部長はわたしの母にまで海外旅行のお土産を買ってきて(a くれた b あげた c もらった)。
- 君が説明書を(a 送った b 送ってくれた c 送ってあげた)ので助かりました。
- 昨日渡辺君が(a 見せた b 見せてくれた c 見せてもらった)書類に何を書いてあったか忘れてしまった。
- 山本さんがうちの祖母を花見に招待して(a くれた b あげた c もらった)。
- 道に迷ってしまった。通りかかったおばあさんに道を聞いたら、親切に教えて(a くれた b あげた c もらった)。
- 今日は美容院で、あまり好きではない形に髪を(①a 切ってくれた b 切ってもらった c 切られてしまった)。来月はカット代を節約するために、姉に髪を(②a 切ってもらう b 切ってあげる c 切られる)ことにしよう。
- 駅前のスーパーでは、買ったものをまとめて自宅に(①a 届ける b 届けてあげる c 届けてもらう)というサービスを始めた。わたしは週に1度、仕事の帰りにまとめ買いをして、(②a 届けて b 届けてあげて c 届けてもらって)いる。

練習2 てきとう 適当なものをえらびなさい。

- この市には外国人相談室^{そうだんしつ}というのがある。何か問題^{もんだい}があるとき、いろいろ相談^{さうさん}に応じて(①a あげる b もらう c くれる)。先日、この相談室^{さうさんしつ}に行ってアパート^{アパート}の探し方^{さがしかた}を教えて(②a あげた b もらった c くれた)。中国語^{ちゅうごくご}と英語^{えいご}と韓国語^{かんこくご}のコーナー^{コーナー}があって、話をちゃんと理解^{りかい}して(③a あげる b もらう c くれる)から心強い。友人^{ゆうじん}にもこの相談室^{さうさんしつ}のことを教えて(④a あげよう b もらおう c くれよう)と思う。
- 同じクラスの山口^{やまぐち}さんは、校長先生^{けいちょうせんせい}に推薦書^{ていせんしょ}を書いて(①a あげて b もらって c くれて)、日本の高校生^{だいがうせい}の代表^{だいひょう}として世界青少年平和会議^{せいしやうねんへい わかいぎ}に参加^{さんか}することになった。あの厳しい校長先生^{きびげんせい}がよく推薦書^{ていせんしょ}を書いて(②a あげた b もらった c くれた)ものだと感心^{かんしん}するが、山口^{やまぐち}さんにはそれだけのパワー^{まわ}がある。そのパワー^{まわ}を周りの人^{ひと}たちにも分けて(③a あげて b もらって c くれて)ほしい。
- だれかに自分の気持ち^{きもち}を聞いて(①a あげる b もらう c くれる)ことは、精神安定剤^{せいしんあんていざい}のような効果^{こうか}がある。何の批判^{ひはん}もされず、ただ聞いて(②a あげる b もらう c くれる)だけで人は心が安定^{あんてい}してくるものだ。相手^{あいて}がときどき軽くあいつち^{あいつち}を打^うって(③a あげれば b もらえば c くれれば)、さらに話しやすい。そういう思い^{おもひ}があって、わたしはほかの人^{ひと}の話を一生懸命^{けんめい}聞いて(④a あげる b もらう c くれる)ように心がけている。
- 年をとった母^{はは}のために役所^{やくしよ}へ行って老人ホーム^{にゅうしよ}への入所^{かきり}を相談^{ていねい}したら、係^{かかり}の人が丁寧に説明^{ていねい}して(①a あげた b もらった c くれた)。「市内^{しやん}に何か所か施設^{しせつ}がありますから、お母さん^{おはは}を案内^{あんない}して(②a あげて b もらって c くれて)ください。お母さん自身^{じしん}が一番いいと思う所^{ところ}を探^{さが}して(③a あげる b もらう c くれる)のがいいですよ。」と言われた。そうだ。最終^{さいしゅう}的には母^{はは}に決めて(④a あげる b もらう c くれる)のがいいのだ。
- 近くの公園^{こうえん}内のベンチ^{ベンチ}が壊^{こわ}れているので早く直^{なお}して(①a あげたい b もらいたい c くれたい)と思って、役所^{やくしよ}に電話^{でんわ}で(②a 連絡^{れんらく}した b 連絡^{れんらく}してあげた c 連絡^{れんらく}してもらった)。係^{かかり}の人^{ひと}は一応^{いちおう}話を聞いて(③a あげたが b もらったが c くれたが)、何日^{なんにち}待^{まち}っても直^{なお}しに来て(④a あげない b くれぬ c もらわぬ)。住民^{じゅうみん}の要求^{ようきゅう}にもっと早く(⑤a 応^{おう}じてほしい b 応^{おう}じてあげてほしい c 応^{おう}じてくれてほしい)。

まとめ つぎ ぶんしやう 次の文章^{ぶんしやう}を読んで、文章全体^{ぶんしやうぜんたい}の内容^{ないよう}を考えて、1 から 5 の中^{なかつ}に入る最もよいものを1・2・3・4から1つ選^{えら}びなさい。

このあいだ、大きな葬儀社^注の社長^{しゃちょう}さんと話す機会^{きかい}があった。とてもやさしくあたたかみのあるその社長^{しゃちょう}さんは、おもしろい話を1。「最近^{しんき}、うちの会社^{しやうしやく}に就職^{しゅうしょく}したいという若者^{わかしや}が増^ふえているんですよ。就職難^{しゅうしょくがた}ということもあるでしょうけれど、どうもそれだけではないようです。別の企業^{けいぎん}に合格^{ごうかく}したのに、どうしても葬儀社^{そうぎしゃ}に、と希望^{きぼう}して来る人もいますのです」

「若者^{わかしや}たちは、これまで地味^{ぢみ}な仕事^{しごと}と2 葬儀社^{そうぎしゃ}に、どうして就職^{しゅうしょく}したがるのだろう？」

私がそう質問^{しつもん}すると、社長^{しゃちょう}さんは3。「それは、私たちの仕事^{しごと}が人を助け、感謝^{かんしゃ}される仕事^{しごと}だからです。今の世^よの中^{なかつ}、直接^{じきやく}お客^{おきゃく}さんから“ありがとう、おかげで助かりました”と4 仕事^{しごと}は、なかなかないでしょう？」

たしかにそうだ。ふつうの会社^{かいしゃ}や役所^{やくしよ}につとめても、自分のした仕事^{しごと}が直接^{じきやく}、だれかを救^{すく}うという機会^{きかい}はまずない。私も大学^{だいがく}で授業^{じやうぎや}していて、学生^{がくせい}に「先生^{せんせい}、いいこと教えてくれてありがとう」なんて5 ことはない。病院^{びやういん}では「ありがとう」と言^いわれる場面^{ばめん}もあるけれど、「ぜんぜんよくなりません」と苦情^{くじやう}を言^いわれることもけっこうある。

(香山リカ『10代のうちに考えておくこと』岩波ジュニア新書による)

(注) 葬儀社^{そうぎしゃ}：葬式^{そうしき}の手伝い^{てつだ}をする会社

1

- 1 聞いてくれた 2 聞いてもらった 3 聞かせてくれた 4 聞かせてもらった

2

- 1 思わされた 2 思われてきた
3 思ってもらっていた 4 思ってもらってきた

3

- 1 答えてくれた 2 答えさせてくれた
3 答えてあげた 4 答えさせてあげた

4

- 1 言ってくれる 2 言ってもらえる
3 言わせてくれる 4 言わせてもらえる

5

- 1 言われた 2 言わせた 3 言ってあげた 4 言ってくれた

文章にまとまりを持たせるために、指示表現は大切な役割を持っています。文章中の指示表現には「そ」または「こ」のつくものを使い、ふつう「あ」のつくものは使いません。

A 文章中の「こ・そ・あ」の基本

◆文章の中の指示語はふつう、前に出てきた言葉や文を指します。

◆文章では「そ」を使うのが基本です。

◆話題や指すものが、話者と心理的に近いことを示したいときは、「こ」を使うことが多いです。

例・人の話に耳を傾けて熱心に聞く。このことの大切さをわたしはこのごろ実感している。
・昨日、佐藤さんが訪ねてきた。この人には10年以上もの間会っていなかったが、決して忘れてはいけない人である。佐藤さんは……

B 「こ」しか使えない場合

1. 話者が紹介した言葉やデータを指すとき

例・「それでも地球は動いている」。これは地動説を唱えたガリレオ・ガリレイの有名な言葉である。
・現在、日本の小麦の自給率は約12%である。この数字はさらに低くなると思われる。

2. 指すものの原因・理由を詳しく言うとき

例・野菜の値段が通常より上がっているそうである。これは4月になっても寒い日が続いたためである。
・ダイエットに成功してこのごろ体調がいいです。これは妻が厳しく健康管理をしてくれたおかげです。

C 「そ」しか使えない場合

1. 仮定文(もし～たら・たとえ～ても)の中のものを指すとき

例・もし住民が反対してこの計画が実行できなくなったら、その責任はだれがとるのか。
・たとえ遠くへ引っ越しても、そこでもきっとたくさんの友達ができるだろう。

2. 話者が指示・依頼・勧誘した内容に関係のあるものを指すとき

例・当日の会費は受付の人に払ってください。その人が会場に案内してくれるはずです。
・集合場所に着いたらまずカードを受け取る。それに自分の名前を書いて胸につけてください。

3. すぐ前にある言葉を指すとき(「その」を使います。)

例・この箱の中に製品とその使用説明書が入っています。
・まず円をかき、その中に好きな言葉を三つ書きます。

4. 他者の意見や、前の文で書いたことを否定するとき

例・景気はだんだん回復していくと言う人もいるが、わたしはそうは思わない。
・彼には本当に指導力がないのか。そんなことはないと思います。

D 「あ」を使う場合

1. 筆者が個人的な文章の中で、回想して述べるとき

例・沢田氏と別れてもう20年になる。あの人は今どうしているのだろうか。
・青森から引っ越してきたのが3年前の3月。あれから青森には一度も行っていない。

問題1 どちらか適当な方を選びなさい。(両方良いものもあります。)

- 「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」(a これ b それ)は『雪国』という小説の有名な一節である。
- ある雑誌にわたしはK. N. の名を見つけた。(a この b その)人とわたしにはある秘密のつながりがあった。
- 現在日本でウェブニュースを読む人の割合は20代が最も高く、72.8%、読まない人は26.9%、同じ年代で新聞を読む人は52.7%、読まない人は46.7%となっている(平成21年文化庁調査)。(a この b その)数字からどんなことが言えるだろうか。
- 町の本屋の閉店が相次いでいる。(a これ b それ)は主に、インターネットによる直接購入や大型書店の出現で、利用率が下がったためと考えられる。
- まっすぐ行くと入り口があります。(a ここ b そこ)に立っている人が入館許可証を渡してくれるはずです。

- 6 この原稿^{げんこう}をチェックして問題点^{もんだいてん}を見つけ出してください。(a この b その)箇所^{かしょ}は後でわたしが再^{さい}チェックします。
- 7 もし別の人がこの会^{かい}を運営^{うんえい}することになったら、(a この b その)人^{ひと}にしっかり会^{かい}の内容^{ないよう}を説明^{せつめい}したい。
- 8 このイベントに参加^{さんか}していただけるのは、小学生^{しょうがくせい}と(a この b その)保護者^{ほごしや}です。
- 9 アンケート結果^{けつかけ}については図A^ずを見ていただきたい。(①a この b その)グラフ^{がふ}からわかるように、買い物袋^{ぶくろ}を必ず持参^{かねら}する人はまだ多いとは言えない。(②a これ b それ)は「持ち歩く^{も みる}のが面倒^{めんどう}」、「なんとなく格好^{かつこう}が悪い」というのが主な理由^{おも りゆう}のようである。
- 10 大学の前にある喫茶店^{きっさてん}でよくコーヒーを飲んだものだ。(①a その b あの)喫茶店^{きっさてん}はまだ(②a その b あの)場所^{ばしょ}にあるだろうか。

問題2 適当^{てきとう}なものを選びなさい。

新聞を読んでいて、これはと思う記事^{きじ}にぶつかる。あとで切り抜いておこう、と思いながら、ほかのところへ目を移す。ところが、この「あとで」がくせものである。しばしば、その「あとで」はとうとう、やってこない。

忘れてしまう、というのではない。覚えてはいる。ただ、とりまぎれて、二日も三日も経ってしまふことがすくなくない。そこで思い出して、そうそう、(①a これ b それ c あれ)を切り抜かなくてはと、新聞をとり出して、たぶん、(②a ここ b そこ c あそこ)ではなかったか、と思うところを見ると、ない。おかしい、とすこしあわてる。こうなると、もう見つからない。さては、夕刊^{ゆかん}だったか。(③a こんな b そんな c あんな)ことはない。たしかに朝刊^{あかん}で、(④a この b その c あの)ページ^{ぺーじ}だったと目を皿^{はら}のようにするが、見つからない。いらする。そうなると、ますます大事なことが書いてあったように思われてくる。

どうも、興味をもつて読んだものは、頭の中へ入ると、勝手に変化^{へんか}するらしい。たしか、(⑤a こんな b そんな c どんな)見出し^{みだし}の感じ^{かんじ}だったと思つてさがすのに、見当たらない。やっとながし当ててみると、頭に描^えいていたのとは、違^{ちが}っているではないか。

それでも出てくればいい方^{かた}である。三、四日前^{さんよっぴちひ}に(⑥a こんな b そんな c どんな)記事^{きじ}があった、というのでさがすときなど、まず、見つからない方が多い。購読紙^{くどくし}が一紙^{いし}だけならいいが、三紙も四紙もあると、そもそも(⑦a この b その c どの)新聞^{しんぶん}だったかすら、あやしくなってしまう。新聞の山^{やま}の中から、目ざす記事^{きじ}を見つけ出すのは、よほどの平常心^{へいじんしん}が必要^{ひつやう}で、あせったり、急い^{いそ}だりしては、決して見つけれない。

(外山滋比古『思考の整理学』ちくま文庫による)

まとめ 次の文章^{ぶんしょう}を読んで、文章全体^{ぶんしょうぜんたい}の内容^{ないよう}を考えて、**1** から **5** の中^{うち}に入る最もよいものを1・2・3・4から一つ選^{えら}びなさい。

雨を見ていて面白い経験^{おもしろい けんけん}をしたことがある。絵^えの中で雨を線^{せん}で描^かくのは日本人^{にっぽんじん}だけらしい。ゴッホ^{ゴッホ} (注1)が模写^{もが}した有名な広重^{ひろしげ} (注2)の **1**、雨を線^{せん}であらわすというのはヨーロッパ人^{ヨーロッパじん}には新鮮^{しんせん}だったらしい。 **2** もちろん大人^{おとな}になってから知^しったことだ。認知学^{ちにかがく}の方^{かた}でも、雨を線^{せん}として見るのは日本人^{にっぽんじん}独特^{ととく}の認識^{にんしき}なのだと言^いっている。 **3** おもしろいことだ。欧米人^{おうべいじん}には雑音^{ざつおん}としてしか聴^きこえない虫^{むし}の音^{おと}が、日本^{にっぽん}ではすごく美しい音色^{おんしき}に聞^{きこ}えたりする感覚^{くわんかく}と、どこかで通^とじているのではないかと思う。

ばくも、雨^{あめ}というのはそもそも細^こい水^{みづ}の線^{せん}になって落^おちているものだと思^{おも}っていた。 **4** はどこまで繋^{つな}がっているのだろうかと思^{おも}ひがたつた。ところが、あるとき先生^{せんせい}に「雨^{あめ}は本当^{ほんとう}は線^{せん}ではない。水^{みづ}の粒^{つぶ}が落^おちてきているんだ」と教^{おし}わつた。でもなんとなくそれは納得^{なつとく}がいかなかった。雨^{あめ}を見てみると、どうみても線^{せん}に見える。線^{せん}に見えるのに粒^{つぶ}だとは、どうも納得^{なつとく}がいかなかった。

その後^{のち}学校^{がっこう}で、万有引力^{ばんいうしりき}のことを知^しつた。理科^{りか}で習^しつたのか、図書館^{としやかん}で読^よんだのか、友だちと **5** しやべつたりして覚^{おぼ}えたのかもしれない。綿^{わた}と釘^{くぎ}を同時^{どうじ}に落^おとした場合^{ばいばい}、空気^{くうき}の抵抗^{ていこう}がなかったら綿^{わた}も釘^{くぎ}も一緒^{いっしょ}に落^おちると聞^{きこ}いて、これもなかなか納得^{なつとく}がいかなかった。

(赤瀬川原平『目玉の学校』ちくまプリマー新書による)

(注1) ゴッホ：オランダの画家^{がが} (1853～1890)

(注2) 広重^{ひろしげ}：日本の浮世絵師^{うきよえし} (1797～1858)

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1 1 雨の絵もそうなのだが | 2 雨の絵もああなのだが |
| 3 雨の絵はそれほどでもないが | 4 雨の絵はあれほどではないが |
| 2 1 これは | 2 それは |
| 3 こんなふうに | 4 そんなふうに |
| 3 1 これは | 2 それは |
| 3 あれは | 4 どれも |
| 4 1 どんな水の線 | 2 そんな水の線 |
| 3 あの水の線 | 4 その水の線 |
| 5 1 このように | 2 そのように |
| 3 こんなことを | 4 そんなことを |

9 課 「は・が」の使い分け

「は」と「が」は基本的な機能が違い、文章の中でそれぞれの役割があります。文章にまとまりを持たせるために、「は」と「が」を使い分けることが必要です。

◆「は」と「が」の基本的機能

例 今日夕食はユリが作る。

「は」 主題(何について話すか)を示す。「今日の夕食は」

「が」 主格(動作・事態の主体)を示す。「ユリが」

A 文章の中での「は」と「が」の基本的用法

「が」初めて話題に出たもの、または、読み手には特定できないと考えられるもの

「は」すでに話題に出たもの、または、読み手に特定できると考えられるもの

例・昔むかし、あるところに、おじいさんとおばあさんが住んでいました。ある日、おじいさんは山へ木を切りに行きました。おばあさんは川に行って洗濯をしました。その時、川上から大きな桃が流れてきました。桃は今まで見たこともないほどの大きさでした。

初めて話題に出たもの：①おじいさんとおばあさんが ④桃が

すでに話題に出たもの：②おじいさんは ③おばあさんは ⑤桃は

B 初めて話題に出たものであっても「は」を使う場合

1. 二つのことを対比させるとき

例・わたしは日本にきた当時は日本語がわからなかった。今はもう困ることはない。

・この学校は環境はいい。しかし、交通は不便だ。

2. 特に取り立てて話題にするとき

例・わたしはモーツァルトの音楽はすでに飽きるほど聞いた。しかし、聞くとたびに新しい発見がある。

・昔のようなのどかな光景はもう絶対に見るチャンスはないだろう。そう思うと残念でたまらない。

C すでに話題に出たものであっても「が」を使う場合

1. 前の文章の流れが大きく変わるとき

例・わたしは夫婦は体のことで心配したことはなかった。わたしも妻も食事に気をつけ、定期的に健康診断もしていた。毎日の運動も欠かさなかった。ところがある日、妻が「体の調子が悪い」と言い出した。

・この検定試験は長い間同じ形式が守られ、毎回大体同じような内容の出題がされていた。その試験が来年から大きく変わるという。

2. 「は」で取り上げた話題について、特徴的なことがらや性質を述べるとき：「～は～が」文

例・先日ふるさとの山形県に帰った。毎日さくらんぼを食べた。確かに山形県はさくらんぼが豊富だが、毎日食べると飽きてしまう。

・ふるさとの駅に着いて空を見上げた。ふるさとは空が特別にきれいだ。

3. 出来事の報告をするとき・ニュース性がある話題を取り上げるとき

例・今朝、中央線で電車の事故があった。そのため、電車が20分遅れた。

・駅前のビルが完成した。明日完成祝いが開かれるそうだ。

練習1 「は」か「が」を _____ の上に書きなさい。

- わたしは田中博士の部屋を訪ねた。目が大きく髪の長い、美しい女性 _____ 博士だった。
- わたしは田中博士の部屋を訪ねた。博士 _____ 目が大きく髪の長い、美しい女性だった。
- 日本の各地に「富士」 _____ ついた地名 _____ ある。それほど富士山 _____ 人々に親しまれ、大切にされているのだ。
- 今年の夏の平均気温 _____ 記録的だった。気温 _____ 35度以上の猛暑日 _____ 続いて、死者 _____ 出るほどだった。
- たばこ _____ 値上がりして、喜ぶ人 _____ だれか。自分も含め、家族 _____ たばこを吸わない人 _____ 一番喜ぶのではないかな。
- 近所の公園に高齢者のためのスポーツ広場 _____ できた。毎朝、数人 _____ 集まってきて、体を動かしている。
- 母の友人に山川さくらさんという人 _____ いる。さくらさん _____ 80歳を過ぎてもおしゃれをして、よく出歩き、よくおしゃべりをしていた。そのさくらさん _____ 最近全く元気がなくなったというのである。

練習2 「は」か「が」を の上に書きなさい。

- 1 ミルクを買って家に帰ると、拾ってきた子猫がいない。あれほど見ていてと頼んだのに……。のんびり漫画を読んでいる兄に怒って聞いた。
- 「ねえ、どこなの？」
- 「あ、お母さん①_____買い物。」
- 「そうじゃなくて、猫よ、猫！」
- 「ああ、さっき、お父さん②_____外に……。体③_____汚れているからだめって……。」
- わたし④_____最後まで聞かずに家を飛び出した。
- 2 音楽①_____人の心を優しくする。音楽の中では、クラシックのピアノ曲②_____特にいいが、ピアノ曲③_____クラシックでなくても、最近の若い作曲家のものも気に入っている。そして、わたしは音楽④_____好きな人⑤_____好きだ。音楽⑥_____好きな人⑦_____、きっと音楽と同じようにわたしの心を優しくしてくれるだろうと思う。
- 3 君は広島に行ったことがありますか。広島の前爆ドーム①_____世界遺産にも指定されています。日本には世界遺産②_____10数か所あり、いろいろな国の③_____訪れますが、近代の戦争のきずあとを世界遺産にしているの④_____ここだけなので、ぜひ一度見に行ってみるといいでしょう。
- 4 いつだったかわたし①_____連絡せずに遅く帰ったので、父にしかられた。父②_____とても心配したらしい。もともとうちの父③_____母より心配性で、何かと心配すること④_____多い。その父⑤_____、ある日から突然、性格⑥_____変わったように何も心配しなくなった。これにはわたしより母の方⑦_____驚いたようだ。
- 5 「力がある人①_____何でも一人で決めるのではだめだ。多数決で決めよう。」と、「多数決」という方法がよく使われる。多数決②_____民主主義的手段としてわたしたちの日常の中に入り込んでいる。みんなに同じ権利③_____あつて、一番多く賛成を得られた意見④_____尊重される。多数決⑤_____確かに民主主義的な方法ではあるだろう。しかし、ときどき問題になること⑥_____ある。少数の意見⑦_____どうなるか。この点も考えられなければならない。徹底的に話し合いを行い、少数の意見⑧_____考慮されてこそ、多数決が民主的手段になるのだと思う。



【まとめ】 つぎ つぎ ぶんしりょう ぶんしりょう ぶんしりょうぜんたい ぶんしりょうぜんたい ないりょう ないりょう から 1 から 5 の中に入る最もよいものを 1・2・3・4 から一つ えら えら 選びなさい。

どんな大木も、そのほとんどの部分は死んでいます。 1、樹皮^(注1)の下のわずかな部分だけ。よく、中心部が腐^{くさ}って中空^{ちゆうくう}になっても生きている木がありますが、それは 2 最初から死んでいるのです。

生きている部分は、日々成長を続けています。春から秋まではざかに成長し、冬にはごくわずかししか成長しません。そして、成長がよかった部分が白くなり、悪かった部分は黒色になります。 **3** ^{ねんりん}年輪^(注2) のできるしくみです。ですから、4～6年ほどで高さ20メートルに成長する熱帯地方特有の樹木バルサは、 **4** 、ほとんど年輪がありません。

ちなみに、5 毎年、外側に増えていくのでしょうか、それとも内側に増えていくのでしょうか。答えはもちろん、外側。樹皮の下の部分が生きているということを知っていれば、答えは簡単ですね。

(C)本郷陽二／日本文芸社)

(注1) 樹皮：木の表面にある皮

(注2) 年輪^{ねんりん}：木を横^{よこ}に切ったときに見られる、円^{かき}がいくつも重^もなっている模様^{よう}

1

- 1 生きているのが
2 生きているのは
3 死んでいるのが
4 死んでいるのは

2

- 1 その部分が 2 その部分は 3 この部分なら 4 この部分も

3

- 1 これは 2 これが 3 それは 4 それが

4

- 1 気候の変化が多いので 2 気候の変化が少ないため
- 3 気候の変化が多ければ 4 気候の変化は少なかったら

5

- 1 木の年輪が 2 木の年輪は 3 木の年輪も 4 木の年輪では

接続表現は、文と文、段落と段落の関係をはっきりと示すために使われる言葉で、文章の展開を助け、文章にまとまりを持たせる役割を果たします。読む人からすると、次にどんな内容が書かれているかを予測する手がかりになります。

文章で使われる、N2レベルの接続表現の基本的な使い方は次のようなものです。

つづ かけ方		a	b
話題を変えない	A 並べる	加えて言う しかも そのうえ さらに そればかりか そればかりでなく	比べて言う それに対して 一方 どちらかであることを言う あるいは それとも
	B 論理的に続ける	結果・結論を言う そのため したがって そこで すると このように こうして	予想と合わないことを言う だが ところが それなのに それでも
	C 説明を補う	理由・根拠・背景を言う なぜなら というのは	足りない説明を言う ただし ただ もっとも なお
	D 話題を変える	さて	ところで

A 話題を変えない—並べる

- a 例・すごい雨だ。しかも、風まで強くなってきた。(同じ評価のことを加える)
- ・田中さんの家で料理をごちそうになった。そのうえ／さらに／そればかりか／そればかりでなく、お土産までもらった。(もっと程度が高いことを加える)
- b 例・駅の南口の方はにぎやかだ。それに対して／一方、北口の方は静かだ。(比べる)
- ・風邪かもしれない。あるいは、インフルエンザかもしれない。(ほかの可能性を言う)
- ・仕事を続けるべきか。それとも、留学するべきか。(ほかの選択肢になる質問を言う)

B 話題を変えない—論理的に続ける

- a 例・この町は標高1,000mの高地にある。そのため、夏でも涼しい。(結果を言う)
- ・ここは禁煙だ。したがって、たばこはここで吸ってはならない。(結論を言う)
- ・わからないところがあった。そこで、先生に聞いてみた。(その理由による行動を言う)
- ・太郎は箱を開けた。すると、中から煙が出てきた。(そのきっかけで起こることを言う)
- ・メールはいつでも簡単に送れるし、安い。しかし気持ちがよく伝わらないこともある。このように、メールにはいい点も良くない点もある。(結論を整理して言う)
- ・大学では友達もできたし、いいアルバイトも見つかった。こうして、わたしの新しい生活は始まった。(結果をまとめて言う)
- ・結婚式は必要ないと思う。なぜなら／というのは、お金がかかるからだ。(理由を言う)
- b 例・この映画は30年前に作られた。だが、今も人気がある。(予想と合わないことを言う)
- ・何度も確認したはずだった。ところが、計算が間違っていた。(意外な事実を言う)
- ・全力で走った。それなのに、負けてしまった。(意外な事実や残念な事実を言う)
- ・宝くじが当たることはめったにない。それでも、買い続けている。
(その事実があっても変わらないことを言う)

C 話題を変えない—説明を補う

- a 例・明日は休みだ。つまり、学校に行かなくてもいいのだ。(別の言い方で言う)
- ・野菜は健康にいいが、肉や魚などのたんぱく質も取る必要がある。要するに、いろいろな物をバランスよく食べることが重要だ。(要約する)
- ・このアニメを知らない日本人はいないだろう。いわば、これは国民的アニメだ。(例える)
- b 例・閉館日は月曜です。ただし、祝日と重なる場合は翌日の火曜が閉館です。(例外を言う)
- ・この時計はデザインもいいし性能もいい。ただ、値段が高い。(評価や主張を修正する)
- ・わたしはテニスが好きだ。もっとも、最近はやっていない。(予想されることを修正する)
- ・説明会は3時までです。なお、その後ご質問を受け付けます。(補足情報を言う)

D 話題を変える

- a 例・お久しぶりです。お元気ですか。さて、今日はお聞きしたいことがあってメールしました。
(次の展開に進むために話題を変える)
- b 例・今年もあと1日。お正月の準備はお済みですか。ところで、12月31日が「大みそか」と呼ばれるのはなぜでしょうか。(別の方向に話題を変える)

練習1 適当なものを選びなさい。

- DVDを借りたい。(① a そのうえ b それなのに c すると)、近くにはDVDを借りられる店がない。そのような人も多いでしょう。(② a ところで b したがって c そこで)、考え出されたのが、インターネットでDVDが借りられるシステムです。
- 「あそこに咲いていた花はきれいだったね」と言われても、覚えていないことがある。(① a このように b ただ c さて)、記憶は人によって異なる。(② a ところが b あるいは c つまり)、見たものが必ず記憶に残るとは限らないのだ。
- 出版物などのコピーは私的な利用だけに制限されている。(① a あるいは b ところが c したがって)、ほかの人が書いた本を許可なくそのままコピーして多くの人に配ることはできない。(② a さらに b それとも c ただし)、目の不自由な人のために点字に直すことなどは認められている。
- 多くの人が、どこへ行くにも携帯電話を持ち歩いている。(① a しかも b いわば c そこで)、携帯電話は体の一部と言ってもいい。今の携帯電話は「電話」という名前以上の働きをする。(② a たとえば b なぜなら c すると)、持ち主が今どこにいるかもわかり、必要な情報を送ってくれる。(③ a それとも b そればかりでなく c つまり)、銀行の通帳のような役割も持っている。(④ a そのため b ただし c それでも)、わたしは携帯電話を持ちたくはない。この反抗心は何なのか。

練習2 〇から適当なものを選び、〇の上に書きなさい。

〇 〇 〇 〇 〇
一方 〇 〇 〇 〇 〇
〇 〇 〇 〇 〇

- バナナがまだ青くて硬い場合はりんごと一緒に保存しておく。① 〇、早く柔らかくなる。② 〇、りんごからはエチレンという物質がたくさん出ているからだ。この物質がほかの果物を柔らかく甘くするのだ。
- テレビが登場したばかりのころ、「向こうから見られている気がする」という苦情が多く来たのだそう。そのころのテレビ画面は丸かった。① 〇、画面を四角いものに変えたら、このような苦情はなくなった。目玉にしても、カメラのレンズにしても、丸いものはこちらをのぞくものだという意識が働く。② 〇、窓のような四角い穴なら、こちらから眺めるとテレビの機能と合っているというわけだ。③ 〇、テレビ画面は丸ではなくて四角い形が用いられるようになったのだという。

まとめ 次の文章を読んで、文章全体の内容を考えて、1 から 5 の中に入る最もよいものを1・2・3・4から一つ選びなさい。

最近、カフェ・オ・レという言葉もすっかり日本語に定着したようだ。私たちが大学時代に使った仏和辞典には「牛乳入りコーヒー」とか「ミルク・コーヒー」と訳語がついていたことを思うと隔世の感がある。

1、フランスの民衆がカフェ・オ・レに親しむようになったのはいつのころかという、これが思っているよりも古く、十九世紀の初頭には、カフェ・オ・レとパンだけで朝食をすます習慣がすでに一般的になっていた。

2、早合点してはならないのは、当時のカフェ・オ・レは、コーヒーに牛乳を入れたものではなく、牛乳にコーヒーを入れたものだったということである。3、牛乳を飲みやすくするためにコーヒーで割ったのである。

今日ではちょっと信じられないが、ヨーロッパでは、長いあいだ、牛乳は飲むためのものではなく、バターやチーズを作るための原料にすぎなかった。なぜかといえば、牛乳は腐敗しやすく、変質したタンパクは強い毒性を持っているからである。

4、医者の中には、牛乳が回復期の病人に効果があると主張する者もあったので、わざわざ近郊の農家に出向いて、その場で牛乳を飲む都市住民も出てきた。やがて、目先のきく農民が、搾りたての牛乳を朝一番で運んできて都市の街角で売ようになった。結核の予防になるという噂が牛乳を飲む習慣をさらに広めた。

だがご存じのように、搾りたての牛乳というのは匂いがきつくて案外飲みにくいものである。

5 匂い消しに登場したのがコーヒーだったというわけである。

(鹿島茂『クロワッサンとベレー帽 ふらんすモノ語り』中公文庫による)

- | | | | | | | | |
|---|-------|---|-----|---|------|---|----------|
| 1 | また | 2 | さらに | 3 | ところが | 4 | ところで |
| 2 | そのため | 2 | しかも | 3 | だが | 4 | 一方 |
| 3 | つまり | 2 | やはり | 3 | あるいは | 4 | なるほど |
| 4 | なお | 2 | しかし | 3 | さて | 4 | そればかりでなく |
| 5 | このように | 2 | すると | 3 | そこで | 4 | したがって |

文章としてのまとまりを持たせるために「省略」がよく行われます。省略とは、文章の流れの中で、何を指しているかはっきりわかっている語を後に続く文では言わないことです。そうすることによって言葉の無駄がなくなり、また、文章としてまとまりが出ます。

また、前の文に出てきた言葉を関連する語で言い換えることがよくあります。これも文章にまとまりを持たせるための一つの手段です。

A 省略されやすい場合

◆前の文に出てきて、後の文で同じ語の繰り返しになる場合は省略できます。

例・あきらはまた『こころ』を読んでいる。もう3回も(『こころ』)を読んだそうだが、(『こころ』)を読むたびに新しい発見があるので、何回(『こころ』)を読んでも飽きないのだそうだ。
・先日、あるウイスキー工場へ見学に行った。(ウイスキー工場は)周囲に山々が見え、素晴らしい所だった。

◆前の文に出てきた言葉を「は」で受ける場合、「～は」は省略できます。

例・家の前に車が止まっている。(車は)黒いベンツだった。
・あき子は窓際に本を読んでいた。(本は)前日、本屋で見つけ、迷わず買ったものだ。

◆前の文と後の文の主題(「～は」で表される)が同じ場合、後の文の主題を省略できます。

例・うちは駅から10分のところにある。夜は人通りが少なくなる。(夜は)用心しなければ危ない。
・わたしは最近体調が良くない。(わたしは)仕事が多すぎるのだ。

B 省略されない場合

◆どの言葉の省略なのかかわかりにくい場合は、省略しません。

例・木村さんが林さんに荷物を渡した。林さんはとてもうれしそうだった。
(省略すると主語が林さんか木村さんかわからなくなる。)
・この工場では26人の工員と3人の事務員が働いている。工員は、朝8時半には出勤する。
(省略すると主語が工員か事務員か、あるいは工員と事務員なのかかわからなくなる。)

◆主題を省略した文の後、次の文で別の言葉が主題になっている場合、ふつう省略しません。

例・わたしはリン・ブンショウと申します。(わたしは)中国から来ました。(わたしは)今、東西大学の経済学部3年生です。大学は東京から30キロ離れた所にあります。

C 繰り返し・言い換え

◆前の文に出てきた言葉を同じ言葉で繰り返したり、関連がある別の言葉などで言い換えたりします。

例・山田氏は学生時代、金がなく土木工事のアルバイトをよくやったという。労働はきつく、勉強する気力も残らないほどだった。

土木工事のアルバイト・労働＝似た意味の言葉

・わたしは子供のときから虫を観察するのが好きだった。何時間でも野原で虫を見ていた。時には精密に虫の絵を描いた。将来は虫博士になりたいと思っていた。20年後、夢は実現した。

虫を観察・虫を見て・虫の絵・虫博士＝同じ語

虫を観察・虫を見て＝似た意味の語

将来は虫博士になりたいと思っていた・夢＝内容の言い換え

練習1 次の文の下線の言葉を省略できる場合は()で囲みなさい。

例 庭に桜の木がある。(桜の木は)祖母の代からこの家にある。

- 仕事と生活のバランスを保つのは難しい。仕事と生活のバランスが崩れると体調にも影響する。
- サイレンが鳴った。サイレンは3回鳴った。
- この料理は豆腐と卵で作ります。まず、ボールに豆腐を入れ、はしでかき混ぜて豆腐を崩します。
- 「世界どこでもトラベル」という番組はとても人気がある。この番組はクラスのほとんどの人が見ている。わたしもこの番組を毎週楽しみにしている。
- ストレスという言葉をもっと使ったカナダのハンス・セリエ博士によれば、心と体は別々のものではなく、心で起きたことは体に影響を及ぼし、体で起きたことは心に影響を与える。したがって、心身の健康を考えると、ストレスをどう扱うかは大切なことである。
- 睡眠にはレム睡眠とノンレム睡眠がある。レム睡眠は、体は休んでいるが脳は覚めている眠りのことである。
- わたしが住んでいる所は小さい村のはずれだ。わたしが住んでいる所は周囲に人家がない寂しい所である。人家は15分歩いた所にやっと1軒ある。

練習2 部分の主語を書きなさい。

1 山田さん、ごぶさたしています。お宅のみなさんは、お元気ですか。おとし、^①お会いしたときには、^{ねんない}年内に仕事でスイスに^②行かれるとのことでしたが、その後、またどこかに^③出張されましたか。

実は、わたしも先日、スイスに行ってまいりました。^{ほんとう}本当に美しい^④国ですね。あちこち^⑤見て回りました。スイスにいとこが住んでいるので、何かと^⑥世話してくれました。いとこは今度は、日本で^⑦仕事をするのだそうで、久しぶりに日本に帰れると言って、^⑧喜んでいました。

例：お宅のみなさん

- ①： _____ ②： _____ ③： _____
④： _____ ⑤： _____ ⑥： _____
⑦： _____ ⑧： _____

2 「コピーアンドペースト(コピペ)」という言葉が^①話題になっている。「コピーしてはりつける」という意味だ。^{もと}元はパソコン用語だが、このごろは「ほかの人が書いて、ウェブ上に^②載せたものを、そのままコピーして自分の文章の中に使う」という意味で^③使われることが多い。「コピペ論文はだめです。自分の言葉で書きなさい」と^④言って、大学の先生たちもこれを禁止しているが、なかなか^⑤なくならない。最近では不正なコピペが行われていないかどうかを調べるソフトが作られているようだ。大いに^⑥役立つと期待される。

- ①： _____ ②： _____ ③： _____
④： _____ ⑤： _____ ⑥： _____

まとめ 次^{つぎ}の文章を読んで、文章全体^{ぶんしやうぜんたい}の内容^{ないよう}を考えて、^①から^⑤の中に入る最もよいものを1・2・3・4から一つ選びなさい。

ぼくは、まわりの人があきれてしまうぐらいに、もの忘れをしてしまいます。

たとえば、ぼくが学生に「こういう実験をしてみたらどう?」と言ったはずなのに、一週間後にその実験をしている姿を見て「なんでそういう実験をやっているの?」と訊いたりする。挙句の果てに「その実験はあまり意味がない」みたいなことさえも^①。もの忘れがひどいのは昔からなのです。(略)

もの忘れやド忘れ^(注)が増えると思ってしまう理由は、いくつかあります。子どもの頃に比べて大人はたくさんの知識を頭の中に詰めているから、^②知識を選び出すのに時間がかかる。「大人が一万個の知識の中からひとつを選ぶようなものとしたら、子どもは十個の記憶の中からひとつ選び出すだけだからすぐにできる」というような比喻ができます。

生きてきた上で^③わけだから、これはもう仕方のないことと言っていいと思います。ド忘れをしていても、その内容を誰かに言ってもらうと「ああ、それぞれ! それを言いたかった」とわかりますよね。つまり、ド忘れしている最中でも、その一方で脳は、正解が何かもまた、ちゃんと知っているわけです。つまり、忘れてしまった情報が消えてしまった^④。

それともうひとつ、実は子どももたくさんド忘れをするんです。ぼくも小さい頃からあちこちにものを置き忘れて困った記憶があるのですが、ただ、重要なことは、^⑤気にしていません。それが健全な姿だと思います。

(池谷裕二・糸井重里『海馬 脳は疲れない』朝日出版社による)

(注) ド忘れ：よく知っているはずのことを忘れてどうしても思い出せないこと

- ① 1 言ってしまう 2 言われてしまう 3 言わせてしまう 4 言わされてしまう
② 1 その忘れたことの中から 2 その一万個の中から
3 そのたくさんの中から 4 そのいくつかの中から
③ 1 たくさんのことを忘れた 2 たくさんのド忘れをした
3 たくさんの知識を蓄えた 4 たくさんのことを選び出した
④ 1 わけにはいかない 2 わけがない 3 はずがない 4 わけではない
⑤ 1 子どもはその記憶を 2 子どもはそのド忘れを
3 大人はその記憶を 4 大人はそのド忘れを

文章としてのまとまりを持たせるために、文体を統一するのが普通です。比較的硬い文章で使われる文法形式や語彙は、日常的な会話の中で使われるものとは異なります。

文体＝文章の種類・場面・目的によって異なる表現形式

A 硬い文章の基本

◆全体を普通体か丁寧体かどちらかに統一して書きます。

◆縮約形や会話にだけ現われる言い方は使いません。

例 × これは経済政策じゃない、っていうか、税金の無駄遣いって思ったんだよ。

○ これは経済政策ではない。というより、税金の無駄遣いだと思ったのだ。

◆助詞の省略はしません。

例 × 現場行って、故障の原因調べた。

○ 現場へ行って、故障の原因を調べた。

◆読む人を直接意識しているような書き方はしません。

・敬語 × すでにご紹介したように、今、少子化の問題は深刻である。

○ すでに述べたように、今、少子化の問題は深刻である。

・依頼表現 × この問題について改めて考えてみてください。

○ この問題について改めて考えてみてほしい・考えてみてもらいたい・

考えてみたほうがいい。

B 硬い表現と会話で使う表現

◆比較的硬い文章の中に日常会話で使う言い方が混じると、文体が統一できません。以下のような文法形式に注意しましょう。

(数字と記号は第1部の課)

意味	硬い文章で使う表現	日常会話で使う表現
たとえる	～ようだ	～みたいだ

時間関係を表す	～に際して・あたって(1) ～つつある(2)	～とき ～ている
限定する 限定しない	～のみ(F) ～のみならず(6) ～はもとより(6)	～だけ ～だけじゃなくて ～はもちろん
例示する	～など・～といった(10)	～とか
条件を表す	～であれば ～であっても ～にせよ(15)	～だったら ～だって ～にしても(15)・～にしたって
理由を表す	～ため・～によって(16) ～につき(16)	～ものだから(16)・～もので(16) ～ことだし(17)
軽く言う	～など(21)	～なんか・～なんて(21)
意見や判断を述べる	～おそれがある(22) ～まい(22)・～ではあるまいか(22) ～に相違ない(22) ～にほかならない(23)	～かもしれない ～ないんじゃない ～にきまっている(22) 絶対～だ
強くそう感じる	～ざるを得ない(25)	～なくちゃ・～なきゃ

◆語彙も文体によって使われるものが違います。同じような意味の言葉でも、硬い文章では漢字だけを使う漢語が多く使われます。

品詞	硬い文章で使う表現	日常会話で使う表現
副詞	非常に・大変・極めて わずかに 多数・大量に 徐々に・次第に	とても・すごく ちょっと・少々 いっぱい だんだん
動詞	述べる・語る	しゃべる
接続詞	しかし・だが	でも・けど
その他	このような・こうした	こんな



練習1 どちらか適当な方を選びなさい。

- このまま温暖化が続けば、多くの生物が絶滅するに(①a 違いない b きまっている)。さらに、他の生物(②a のみならず b だけじゃなくて)人間も住めなくなるだろう。
- 自分が悪いことをしたと思ったのなら、(①a 謝らなきゃ b 謝らなければ)ならない。(②a こんな b このような)基本的なことができない大人が(③a 多すぎるんじゃないでしょうか b 多すぎるのではないだろうか)。
- <親しい友達に>「あ、太郎君。ごめん。今、(①a わずかに b ちょっと)困ったことが(②a 起こっちゃって b 発生してしまって)、家を出られないの。遅れる(③a おそれがある b かもしれない)から、先に行つて。」
- ある調査によると、毎日(①a 本や新聞など b 本とか新聞とか)の活字を読んでいる子供は、(②a そうじゃない b そうでない)子供に比べて、自分の意見を(③a しゃべる b 伝える)能力が高いことがわかった。
- <新聞記事>首相は23日の記者会見において、新しく大臣に(①a 就任する b なられる)議員の名前を(②a 言う b 発表する)ことになっている。

練習2 どの部分は文体に合っていない。合うように書き換えなさい。

- <レポート>日本人の学生と留学生を対象に、やった「大学生活への満足度」に関するアンケート調査の結果を、ご報告いたします。最も違いが大きかった項目は「① ② ③ ④ ⑤ ⑥」⑦という質問に対する答えで、「自分の学力ではここしか入れなかった⑧」⑨と⑩の消極的な理由が日本人学生に目立った。
①: _____ ②: _____ ③: _____ ④: _____
⑤: _____ ⑥: _____
- <新聞記事>宇宙航空開発機構は5日、台風の影響があることだし、6日早朝7時に予定されていた人工衛星ロケットの打ち上げを、延期すると発表した。新たな打ち上げは、関係者のお話では、9日午後① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚